

開催地名：東京都町田市	
開催日時	令和5年1月16日（月） 10：00 ～ 11：30
開催場所	町田市役所 現地開催及びオンライン配信（ハイブリッド講演）
語り部	糸日谷 美奈子 （千葉県千葉市）
参加者	市防災課、自主防災組織、市内学校関係者、NPO 32名
開催経緯	<p>当市では、近年の新型コロナウイルス感染症を契機として、1人当たりの避難スペースの見直しを行った。その中で、避難スペースの不足の解決策として、在宅避難の呼びかけを広めていきたい。</p> <p>また、地域における自主防災組織への加入率も市民全体の50%ほどであり、町内会や自治会、自主防災組織の垣根をこえた周知が求められるため、デジタル化などによる成功事例や取り組み例について先行事例などがあれば、共有していただきたい。</p>
内容	<p>（1）はじめに</p> <p>東日本大震災が発生した11年前、私は岩手県釜石市立東中学校で理科の教師をしていた。東北地方太平洋沖地震が発生した際に、皆さんと同じ中学生がどのような行動をとったのか、「助けられる人から助ける人へ」をテーマに、今日は皆さんにお話ししたいと思います。</p> <p>（2）東日本大震災について</p> <p>平成23年3月11日14時45分ごろ、震度6弱の地震が発生した。私はその時、校舎の一階にある職員室にいた。教室では帰りの会が終わり、生徒たちは部活動など次の活動に移動するタイミングで、校内にバラバラに滞在していた。地鳴りが聞こえ、地面はグニャグニャ揺れており、渡り廊下が大きくたわんでいた。揺れが収まるとまずはサッカー部の生徒たちが走り出し、続いて校内にいた生徒たちも高台に向かって走った。</p> <p>最終目的地となる高台のデイサービスセンターの駐車場て海の方を見ると、大きな音と共に砂煙が迫ってくる光景が見えた。災害時、この施設まで逃げることは想定していたが、その先は何も決めていなかったのでパニックに陥った。「逃げろ！死ぬぞ！」と叫ぶ声が聞こえて我に返り、避難してきていた小学生や父兄とともにさらに上に向かって走った。波がここまでは到達しないという確認が取れるまで山の上にはいたが、暗くなり始めたので、避難できる建物まで移動する必要があった。開通したばかりの高速道路を歩いて、市内の廃校になった中学校の体育館に移動した。小・中学生と近隣の住民併せて2,000人が、狭い体育館で足も延ばせずに、食事や暖房もなく、仮設トイレが1台外にあるだけで、段ボールを体に巻き付け背中を合せて暖をとり、一夜を明かした。</p> <p>翌日、さらに内陸の中学校に移動し、食料や寝具をはじめ、必需品の提要を受けてようやく安心することができた。携帯電話が不通で使用できなかったため、生徒たちの家族との連絡や情報収集のために、ラジオ局に情報発信を依頼した。</p> <p>（2）釜石東中学校での取り組み</p> <p>東北地方の太平洋側に位置する岩手県釜石市では、明治三陸地震津波(1896年)、昭和三陸地震津波(1933年)という2度の津波被害を受けた歴史がある。また、政府から、30年以内に震度6弱以上の地震が起こる確率が75%以上であると発表されていた。そのため2009年から防災教育を強化し、釜石東中学校では避難訓練だけではなく、総合学習の時間を利用して、防災マップの作成、救急搬送や応急処置、水上救助、</p>

炊き出し等の学習、安否札 1000 枚の配布を実施した。この総合学習の講師は、学校の職員ではなく、地域の方々が担った。平日の昼間に地域にいるのは高齢者や主婦、幼児、そして学校にいる小・中学生である。自分の命は自分で守るということ、中学生は、助けられる人ではなく、助ける人でなければならないということ、そして学んだことを地域に伝えるということを総合学習で学んだ。

この大震災で、釜石市では 888 人の死者と 154 人の行方不明者が発生したが、釜石東中学校を含む釜石市内の小・中学校では、学校にいた児童・生徒は全員無事だった。これまでの歴史と、災害の危険性を日頃から教育していたこと、避難所の想定をしていたことが実を結んだのだ。このことは釜石の奇跡として報道されたが、釜石東中学校の生徒たちは、日頃から災害に対してしっかり準備をしていたので、決して奇跡ではないという気持ちを持っている。しかし一方では、多くの犠牲者が発生した事実もあるので、中学生が学んだことを、もっと地域の人たちに伝えることができたらという後悔の念も否定できない。

(4) 伝えたいこと

つらいときこそ、周りの人に「ありがとう」と言われることを率先して行おう。苦しい時ほど、周りの人に「ありがとう」と素直に言えるようになろう。そして後悔しない未来を創るためには、いつ来るかわからない災害の前に準備をしておくことが大切である。できることから、一つでもいいから行動に移してほしい。自分の命は自分で守り、学んだことを地域に伝える姿勢を意識してほしいと思う。



開催地より

防災教育は、市内小中学校、都立高校と連携を始めており、避難施設開設訓練等の機会に、学校、地域が連携をして児童生徒に対し、講義や体験学習を行っている。引き続き、地域連携を高めることで防災意識の向上、さらには将来の防災リーダーの担い手育成につなげていきたい。